

yomoyomo 2019

図書委員会だより「yomoyomo」第77号 2019年9月 岸産高図書委員会

『ファクトフルネス』

ロスリング・ハンス/日経BP

この本は「私たちの思い込みを根底から変えてくれる」そんな一冊です。例えば、アメリカと中国の貿易戦争、イラクの紛争などを見て、「世界はどんどん悪化している」と思っていませんか。しかし、実際はそうではありません。連日のように痛ましいニュースばかりが流れていますが、それはほんの一部にすぎず、実際のところ世界はよくなっているのです。その理由がこの本には統計学に基づいて書かれています。あのマイクロソフト社CEOのビル・ゲイツが「世界を正しく見るために欠かせない一冊だ」と大絶賛し、アメリカの大学を卒業した学生の希望者全員がこの本をプレゼントしたほどです。生徒の皆さんも一度手にとって読んでみてはいかがでしょうか。

国語科 後庵健太先生

■「yomoyomo」は、各ホームの図書委員が図書館所蔵の本の中からオススメ本をレビュー形式で紹介し、今号は一年生が担当しました。先生方からのオススメの一冊も必見です。

『なにわの夕なぎ』

田辺聖子/新潮社

『なにわの夕なぎ』は2001年4月から2002年9月まで朝日新聞の夕刊に掲載された田辺聖子さんのエッセイ集です。近所の仲間とお酒を飲んだ席での話が多く、作者と作者の秘書、母親、夫であるカモカのおっちゃんなどが登場します。すべて大阪弁で書かれており、大阪人特有のサービス精神が溢れた文章の中に、作者の鋭い視線を感じることができます。大阪の夕景色が浮かんでくるようなこの作品を、ぜひ皆さんにも読んでもらいたいです。

15H

『日本のデザイン』

原 研哉/岩波書店

私たちの周りにあるものを取り上げ、それが出来るまでの行程や工夫、求められている性能などにも目を向け、外国とは違う日本人の美意識について述べた一冊です。著者は、無印良品や愛知万博を手がけたデザイナーで、日本人の強みを生かし、今後の世界における日本の立ち位置や進むべき方向性を説いています。私はこの本を読み、それまでは何も感じずに見ていたものに対する物の見方が変わりました。もの作りに興味がある人に特にオススメです。ぜひ図書館で借りて読んで下さい。

18H

『笑う招き猫』

山本幸久/集英社

2年前に映画化・ドラマ化された作品の原作本。主人公は、漫才コンビ「アカコとヒトミ」のヒトミ。性格・容姿・経済力……全てが対照的な二人が出会ったきっかけは、なんと緑色の招き猫だった。二人の初舞台は見事に大失敗。続いて、相方のアカコが先輩芸人を殴り倒してしまい、コンビは解散の危機に立たされてしまう。しかしその後、舞台経験を重ねるうちに、コント力がアップしてNHKの番組に出演が決まるなど、そこそこ有名になった二人だが、やがて解散の危機が訪れた……。二人の現実をリアルに描いた、読み飽きない傑作青春小説です。皆さんもぜひ一度、この本を手にとって下さい。

20H



『生きる意味』

上田紀行/岩波書店

部屋ごとにあるテレビ、家に2台ある車……それでも今の生活に豊かさや幸福を感じることができず、自分は不幸だと思っている若者たち。ペンも紙もコンピュータも、道具はふんだんにあるのに夢を描けない、自分の「生きる意味」は何なのかをわからず苦しんでいる人に、一度この本を読んでもらいたいです。「自分自身の心に素直になって、自分が今一番求めていることに従って生きていこう」という作者の言葉に、勇気と希望をもたらした一冊でした。

17H

『「正義」を考える』

大澤真幸/NHK出版

この本の作者が取り上げる「正義」は、悪と戦うスーパーヒーローのような「正義」ではなく、現代における社会的な「正義」を意味します。社会の中での自分の役割や国家、資本についてなど、取り上げられている題材は難しい内容のものが多いのですが、専門用語の解説があり、丁寧にわかりやすく説明されているので、それらの問題について理解が進むきっかけになりました。著者の大澤さんの本を更に読んでみたいになりました。

16H

『メモの魔力』

前田裕二/幻冬舎

私は「メモの魔力」というタイトルに惹かれて本書を手に取りました。皆さんは一日にどれくらいの量のメモを取りますか？ これまでメモを取る習慣のなかった私ですが、この本を読んでから、メモを取ることを意識し始めました。本の中には、著者の前田裕二さんが大量にメモを取る理由と、その事にどれだけの価値があるのかが書かれています。まめにメモを取ることで、日常生活の中で見逃しがちな情報をキャッチ出来るなど、実践してみたいです。たくさんの人に読んでもらい、メモの力をぜひ知っていただきたいです。

21H

『ひとりで、考える』

小島俊明/岩波新書

みなさんは考えることを放棄したことがありますか。自分にとって都合の悪いことや、嫌な思い出・出来事など、考えたくないと思うことは多分あると思います。そんな時にこそ、ぜひこの本を読んでみて下さい。生物の中で考える脳を持っているのは人間だけです。人間の考える力は偉大であり、もし考えることをやめたら人間ではなくなってしまうのではないのでしょうか。自分で考えることの大切さを説いて、様々な視点から物事を考えることができるようになる一冊です。この本を手にとり自分の未来を考えてみませんか。

19H